

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	中津川市駒場1666番地の3965		
自己評価作成日	令和3年7月31日	評価結果市町村受理日	令和3年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年12月16日、当施設でコロナ感染によるクラスターが発生しました。職員も感染し、入居者様も11名感染致しました。そして、その中で3名の入居者様の大切な命が奪われました。この事により、スタッフの介護に対する考え方に変化がありました。押しつけの介護ではなく、入居者様それぞれが本当にしたい事、そして笑顔で日々を過ごせる事を大切に日常生活での関わりを考えて対応しております。取り組みとしては、畑を作り、野菜を育てる事。また、日々花を見て過ごせる様に、庭に色々な花を入居者様と一緒に植えました。コロナ下で外出も出来ませんが、自宅で暮らしていた頃のように、施設でも屋外で花や野菜の生長を楽しみ、また、筋力低下予防の為にマシントレーニングや体操・散歩を日課としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年12月、事業所内において、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生となり、今年1月下旬に終息した。利用者と職員の入退院、利用者が亡くなるなど、まさにコロナとの戦いであり、半数近い職員が離職している。ケアマネジャーが管理者を兼務し、約1ヵ月、泊まり込みでクラスター対応に尽力した。この経験が、残った職員の結束力を強化し、今まで以上に利用者へ寄り添いながら、要望にはチームワークで全力支援している。辛い経験ではあったが、市町村との連携、地域とのつながり、職員同士の信頼関係、家族の理解等、多くの学びと応援を得て、さらに利用者・家族が安心できるサービスの提供に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目に入る場所に提示し、ミーティングの際は全員で唱和しています。解決すべき問題があった場合は、理念に立ち寄り解決策を考える様に指導しています。	職員は、ホーム内で新型コロナ感染拡大を経験をしたことで、より一層、理念について真摯に考え、共有に努めている。職員の退職や異動等に変化があり、法人のパンフレットは、手直しが必要だが、今は感染症対策を優先し、事業所のみを紹介した職員手作りのパンフレットを使っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為面会の禁止、および外出や会議等も制限している為、日常的な交流は出来ていない。	開設3年で徐々に地域の協力者が増え、ボランティアや学生との交流が生まれてきた所に、新型コロナ感染症拡大となり、地域とのつながりは自粛状態にある。収束後には、交流再開が出来る事を、利用者と一緒に楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、具体的な活動は出来ていないが、外出もままならぬ状態の中で、地域の高齢者の皆様との交流をもてる様になった時には、施設での行事や食事会等計画していきたいと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年7月より、新型コロナ感染防止の為、運営推進会議の開催を中止していました。令和3年7月に今年度初めての運営推進会議を開催しました。クラスターが発生した経緯や入居者様の感染・スタッフの感染での入退院の経緯の報告等行いました。	7月に会議を開催し、代表者から、クラスター発生経緯や利用者や職員の感染状況を報告している。感染しなかった職員も、クラスター対応で心身に疲弊する日々であったと思われるが、それらを乗り越え、今は利用者の日常生活も戻りつつある。運営推進会議出席者からの励ましの声と意見を、利用者サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和2年12月にコロナクラスターが発生した際より、市役所との連絡を密に取り、支援物資の調達や問題についての解決方の相談を行い、協力関係を築いて頂きました。クラスター終結後のスタッフの離職問題等事業所の実情も相談しています。	クラスター発生後は、常に市に報告・連絡・相談をすることで、市担当者との協力関係を再構築し、何とか終結することができている。管理者は、今後も今まで以上に連絡を密に取り、助言を得ながら連携を図っていく姿勢で運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会では、定期的に身体拘束についての問題に取り組んでいます。全体会議や運営推進会議でも職員や関係者の方々に現状等周知し身体拘束のないケアへの取り組みの大切さを厳守出来る様取り組んでいます。	職員は、身体拘束についての勉強会で学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。離床センサーで転倒事故防止につなげているが、止むを得ずベッド柵が必要な利用者には家族に説明し、同意を得て対応している。全体会議の中で拘束等廃止委員会を行っており、全体会議録とは別に、単独の議事録作成を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会で、定期的に虐待について学び、虐待の種類を熟知し、事業所内で見過ごされる事の無い様に厳しく取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門職としてケアマネは理解しているが、今後は勉強会での課題の内容も入居者様一人一人の背景や個性・今までの生活状況等十分理解してケアにあたれる様に支援事業・成年後見制度についても理解出来る様にしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にご家族様には、すべての項目について説明させて頂き、了承を得た上で署名・捺印頂いている。ご質問・疑問点には、誠意をもって対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナクラスター発生後より、面会をより一層厳しく中止していましたが、Ipadを使用して画面でお話して頂く様にし、日常生活で入居者様の事での相談等も頻りに連絡をとらせて頂いております。ご意見やご要望はその都度伺って対応しております。	昨年度、課題であった家族向け通信の発行に着手し、家族に利用者の様子を伝えている。今後、さらに充実した紙面をめざし、家族からの意見欄を設けたり、職員紹介も検討している。コロナ禍で面会を中止しているが、タブレットを活用したWeb面会や電話連絡で家族の安心につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々変化する入居者様の状況やそれに合わせてのケアの方針等、現場職員からの連絡・報告を元に、職員全員の意見を聞き取り、ミーティングの場等でより良いケアを相談し決定している。	クラスター発生となり、職員の入院や離職者があった。残った職員が結束して、この苦境を乗り越え、今は、チームワークが強化されている。ミーティングでは管理者が職員の意見をまとめ、代表に報告している。	看取り体制があっても、本人・家族が負担する費用面から、入居に結びつかない事も多々あり、特養へ移る利用者もある。代表は、現在1ユニットの稼働を2ユニットにする意欲を示しているが、職員のモチベーションを大切にしたい運営に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナクラスター発生後より離職者が多く出ました。終結後は、人員が少ない状況で何とか継続しています。この経験を生かして、就業環境や勤務状況を見直しより働きやすい職場にする為に整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入の職員には、担当を付けて指導している。書く職員の資格取得の為に研修やグループホーム部会の研修会や主治医に依頼して医療面とも連携し、学習する機会を意欲的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会やケアマネ部会の研修に参加し、また、近隣のグループホームにも訪問し、相談したり連絡を取り、コロナ禍での対応等確認しながら、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせ後、始めに事前面談でご自宅に訪問し、本人様のご様子、ご要望・ご家族様のご希望・ご要望を詳しく聞き取る事は一番大切な事だと考え、聞き取った内容を職員全員に周知させ安心と信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学の際、施設の皆さんの毎日の日常生活のご様子をお伝えし、ご家族様からの心配事、ご要望・今まであった体験やご苦労をよく聞き取りご家族様の気持ちを受け止め、今後の本人様との良き関係性を築いていける様こまめに連絡します		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の本人様とご家族様の状況から、今、一番何を優先するべきかどんな支援が必要なのかを客観的に見極めて対応出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の押しつけではなく、共にいろいろな日常の作業(畑の手入れや収穫・食器を洗ったり、洗濯物を干して畳む等)を行いながら、入居者様同士の社会性を見守り、良い関係性を築ける様にお手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、日常生活の中で起こった変化や問題についてこまめに連絡を取り、御意見を伺うようにしています。毎月入居者様のご様子を伝えるお便りや自筆の絵手紙等を遅らせて頂きご家族と本人様の絆を大切に考え、支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の中で本人様から聞き取った要望や不安の中で必要と感じた時は、大切にされてきた方々のお力を借りて、電話で話して頂いたり、IPADを使い顔を見て話して頂いたり、ドライブで懐かしい場所を通って見たりして対応しています。	クラスター収束後も、感染予防対策の徹底を継続しており、外部からの面会は中止している。管理者と職員は、利用者の馴染みの人や場所とのつながり、利用者一人ひとりの思いを丁寧に聴き、収束後の支援再開を楽しみにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナウィルスの拡大で外出も思う様にできない中、日常生活で共に過ごされる入居者様の関係を良い状態に保たないと大きなストレスになります。グループレクリエーションでそれぞれの方を理解して頂ける様に常に意識して支援に努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もなんでも遠慮なく相談して頂ける様に、お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共に過ごす中で、聞き取った希望や意向・聞き取れなくても表情で感じた事等、それぞれの入居者様の思いを職員で把握・共有しどのようにして実現していくかを職員全員で考え実行する様に努めております。	管理者と職員にとって、クラスター発生の経験が、利用者に向き合う意識を大きく変えることとなった。コロナ禍であっても、工夫をしながら「今できる事はすぐにやる」、要望には実現に向けて前向きに考える意識を持ち、利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活歴や暮らし方については、入居時より細かくご家族様より聞き取りし、職員全員が把握した上で、その方らしく暮らせる様に支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアの質を上げる為に担当制にして取り組んでいますが、担当の入居者様でなくても常に変化が見られた事は職員全員に伝達し観察していく様に努めています。良い変化も悪い変化も些細な変化も報告・伝達する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様の要望や変化に応じて臨機応変に見直しております。職員との意見交換、ご家族様との話し合い、モニタリングを行い、その時最も優先すべき事を考えて作成しています。	介護計画の元となる個別記録は、利用者の状態をタブレットに入力し、デジタル化して共有する仕組みになっている。その情報を意識し、日々のケアにつなげられるように記録方法も工夫している。職員間で常に利用者の情報を共有し、チームでの介護計画作成と見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、出来るだけ本人様の言葉で、起こった出来事やそれによりきずいた事を記入し、その情報を共有・また毎日検討しながらより良いケアの方向性を探っております。また、そこから計画書の見直しに繋がっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大するまでは、外出や外泊等も一人一人の希望に応じて対応しておりましたが、現在は外出もままならない状況です。ですが、出来る限り、制限のある中でもご家族からの希望に対応出来る様に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流も困難な状況ですが、今出来る事は何かないかと考え、近隣の幼稚園にプレゼントを入居者様皆様で作って見ると言う様な計画を立てています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の意見を伺い、希望された方は、契約医療機関の医師により定期的に往診を依頼しており、在宅のかかりつけ医を希望された方には、ご家族の協力を得て通院をお願いしていたが、コロナ感染拡大の為、今は職員が対応している。	定期的に協力医の往診がある。運営推進会議の参加メンバーでもある医師から、クラスター対応を乗り越えた職員らを労う、あたたかいメッセージが届いている。看護師2名を職員として配置し、医療機関と介護職員と共に、密な連携で利用者が適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に業務の中で気づいた変化は、看護師に報告し、必要であればすぐに医療へ連携して行ける様に介護職と看護職は密に関わっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、病院関係者と情報交換や相談に速やかに対応している。また、ご家族様や本人様、病院関係者とよく話し合い、退院に向けての計画を積極的に支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際にご家族様と良く話し合いを行い、状態に変化のあった際には、主治医やご家族様との連携を密に対応している。希望のある方には、看取り介護も行っている。	看取り指針を整備し、終末期支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症で利用者が亡くなり、職員の動揺は大きかったが、その経験を無駄にしないため、利用者が満足できる穏やかなケアをめざしている。経済面で特養へ移転する人もあり、職員のジレンマになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員に対して、定期的に急変や事故発生時の初期対応、応急手当の研修を受けられる様に計画して実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、年に2回防災訓練を行っている。様々なシミュレーションの災害を想定して自主防衛訓練も計画している。	全職員で夜間の災害対応を身につける為の訓練や、通勤困難になった時の対応等、具体的な災害を想定した訓練を計画している。発電器や備蓄品、ヘルメット等を整備している。地域の防災訓練が実施されれば参加する意向にある。	近年、火災、地震、台風だけでなく、突然の豪雨や土砂災害による被害も多い。多様な災害を想定し、全職員が焦らず適切に行動できるよう、災害の種類や時間等を想定した避難訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方は、親しき中にも礼儀ありという事を自覚し、人生の先輩である入居者様の尊厳を守り、個人のプライバシーを侵害する事の無い様に対応しなければならないと指導している。	職員は、利用者を「お客様」という認識を持って接している。学習会や研修で、利用者の人権やプライバシー侵害にあたる行為及び不適切なケアについて学び、利用者一人ひとりの個性も職員間で共有しながら、適切に接するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務としての決まりきった作業を進めていこうとするあまり、その時々の入居者様の思いや意向をないがしろにすることなく、職員全員が常に思いを汲み取る視点で関わっていく様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の入居者様の生活リズムがあり、ペースがある事を理解し、押しつけの支援ではなく、入居者様がどうしたいのかを、何をすることもまず確認し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、ご自分でしっかりされる方とお手伝いが必要な方がおられます。お手伝いが必要な方には、朝起きて顔を蒸しタオルで拭いて頂き、髪をとかし、洋服を相談してその日、本人様が希望された上着などお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを一緒に行ったり、野菜の筋取りや下準備を一緒に行ったりと入居者様と職員が一緒に家事を行ってききましたが、コロナウィルス感染拡大をきっかけに厨房に入って頂く事を中止していました。元の生活に少しずつ戻して行く所です。	本部の管理栄養士が作成する献立を基本に、2名の調理専属の職員が、畑で収穫した野菜も活用しながら、彩り豊かな食事を提供している。クラスターが収束するまでは、すべて使い捨ての食器で対応し、各居室での提供を行った。現在は、楽しい食事時間の大切さを再認識し、感染対策を徹底した食事支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、管理栄養士のメニューに沿って皆さまと育てた旬の食材を使用して調理しています。水分量は全てチェックして確保出来る様に飲み物の種類を変えたり工夫して提供しています。体調や好みも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔に関しては、毎食後の口腔ケアや義歯の手入れ、定期的な歯科医の往診を受けて維持出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、失敗を減らす為、トイレへの誘導の時間を考えたり、下剤の調節等、看護師と連携して対応しています。夜間どうしてもオムツが必要な入居者様も日中は紙パンツに替えてトイレ誘導しています。自信を無くさぬ様声のかけ方も注意しています。	個々の排泄状況をタブレットで管理している。データを印刷してファイルするだけでなく、さらに職員間で情報共有できるよう工夫した記録表を作成している。利用者の状態に合わせて、排泄用品を適切に使い分け、夜間は、オムツやポータブルトイレの利用等もある。排泄後の便器の消毒を徹底させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中の活動で、午前・午後に必ず体操や散歩・運動を取り入れています。薬に頼らず自然な排泄が出来る様に支援し、飲食物での工夫もしています。それぞれに応じた対応を考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	こちらの都合で押し付ける事なく、本人様の意向を伺って対応しています。また、入浴する事でリラックスし寛いで頂ける様にゆったりとした雰囲気に入って頂ける様に脱衣室の温度やお湯の温度も配慮して好みに合わせて対応しています。	週2回の入浴を基本とするが、汚染や皮膚疾患がある時は柔軟に行っている。感染予防対策として、今は防護服を着て支援しているが、室温管理を徹底し、整理整頓と清潔保持に努めている。機械浴槽もあるが、全員が個浴槽での入浴が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のその時々状況により、休息や睡眠がとれる様に支援しています。体調の変化や表情、精神状態等を職員が把握出来る様に、申し送りでは、色々な面からの視点で観察した事を伝え、職員間で相談し配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の服薬に関する事は、看護師・職員が連携して密に報告・確認しています。新しい薬が処方された際は看護師より目的や副作用等薬に関する指導を受け、入居者様の変化は、職員からの報告で看護師から主治医に報告します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の生活歴を熟知し、楽しみや気分転換の方法も個人ごとに提供出来る様に職員間で毎月相談し、実行している。張り合いや喜びのある日々が一部の入居者様でなく、入所者皆様に感じて頂ける様に工夫や努力していきたいと考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に関しては、現在のコロナウィルス感染拡大により、中々難しい所です。室内ばかりではなく、屋外の空気を吸いたいという入居者様のご意向で、ほぼ毎日施設テラスにて過ごす時間を設けています。また、定期的にドライブ等行っています。	いつでも外気浴ができるように玄関先には、椅子を置いている。花壇に季節の花を植え、庭に畑を作り、胡瓜、茄子、スイカ、トマト、南瓜等を育てている。畑に出る時は、人数を分散し、作物の成長と食べる楽しみを利用者と職員が共有している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、コロナウィルス感染拡大の為、外出して、買い物等はほとんど出来ていません。コロナの感染が落ち着いて外出出来る様になったら、お預かりしている金銭からご家族様に了承を得てご自分で買い物出来る様にしたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、本人様が希望されれば対応する様にしています。手紙は、絵手紙をそれぞれ描いて頂き、出したりご家族様からのお手紙も楽しみにされています。Ipadで画面を見て対面で会話して頂ける様にもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとってただ広いだけの殺風景な家にならない様に、花を絶やさず、温かみがあり安心して頂ける居場所になりたいと考えています。照明は暖色の柔らかい雰囲気があり、正面玄関からは、山並みが一望でき、施設内の湿度は常に適正に保たれています。	間口の広い玄関、風除室には手洗い場もある。感染症対策の為、共有空間は事務所からの見学となった。天井は高く、開放的である。整理整頓、清掃が行き届き、定期的な換気も行っている。花壇で育てた花を飾り、季節感を取り入れている。また、職員手作りの案山子も目を引く。広い空間をレッド・イエロー・グリーンゾーンに分け、感染症対策の強化に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設は、広い共有空間が建物の真ん中に位置している。共有空間から離れ、2~3人で寛げるソファのコーナーがある。共有空間を囲む様に、居室があるが、ベンチを置いたりして一人離れる事も出来る。もう少し、工夫はしたいと考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使い慣れた棚やイス・テーブル等ご自由にお持ち頂いている。落ち着いた部屋作りをして頂ける。	感染症対策の為、居室は窓越しに見る事となった。各居室にクローゼットや洗面台が備えられている。ベッドは電動や低床仕様のレンタルを推奨しているが、使い慣れたベッドの持ち込みや、馴染みの身の回り品を置き、居心地よい居室づくりの手助けをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに分かりやすい様に「トイレ」の表示をしたり、居室がわからなくなる方には、目印になる物を取り付け見つけやすくしています。皆様の身体的な変化等があった場合、安全や安心を考えてすぐに対応して工夫しています。		